

語構成からみた沖縄県名護市幸喜方言の形容詞

かりまた, しげひさ

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

39

(開始ページ / Start Page)

87

(終了ページ / End Page)

116

(発行年 / Year)

2015-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012466>

語構成からみた沖縄県名護市幸喜方言の形容詞

かりまたしげひさ

1. はじめに

本稿は、沖縄島北部名護市幸喜集落の方言の述語になる形容詞についての報告である。本稿は、幸喜集落出身の宮城萬勇氏（1935-1983）の書き残した方言ノートを『名護市幸喜方言辞典』（仮題）として出版刊行するため、幸喜集落の依頼をうけ、そこに記載された単語の音声と意味と品詞の確認作業をおこなう過程でえられた用例と自然会話にでてきた用例を検討の対象とする。なお、方言資料は暫定的な音韻記号で表記する。標準語訳をつけるが、格形式に標準語の形式とずれるものは、カタカナで表記した擬似的な標準語の格形式をあてる。語彙的な意味にずれのあるものは、対応語形を [] にいれて示す。

現地調査は、かりまたと仲間恵子が2000年4月から幸喜区公民館において実施している。2014年7月22日で525回の調査をおこない、なお継続中である。話者は幸喜集落在住のM.Y.氏（1916年～2012年）、M.H.氏（1920年生）、O.E.氏（1917年生）の三人。いずれも幸喜生まれ育ちで、両親も配偶者も幸喜出身者である。なお、調査は辞典編集のための語彙の確認が中心であり、形容詞に関する資料は、調査の回数の割にかならずしも十分なものとはいえない。

本稿で使用する用例は、いいおわりの述語としてあらわれるものを優先させたが、ならべあわせ文やふたまた述語文の述語にあらわれる中止形や接続形もふくんでいる。主語の省略されているものもおおいが、場面からおぎなうことのできるものを取りあげる。

幸喜方言の形容詞は、語彙的な意味として人やものの特性や状態をあらわし、文中では述語、連体修飾語として機能する。名詞とことなり、形容詞は格のカテゴリーを欠いていて、主語、補語、状況語などの文の部分として機能しない。述語になる形容詞は、みとめかた、ていねいさの形態論的なカテゴリーを有するが、動詞とことなりアスペクト、ヴォイス、やりもらいのカテゴリーを欠いている。形容詞は、動詞とおなじように直説法、質問法のムード形式をもつが、はたらきかけ法（命令形、さそいかけ形）の形式をもたない。名詞は、コピュラとくみあわさって述語になることができるが、形容詞とおなじく、アスペクト、ヴォイス、やりもらいのカテゴリーを欠く。直説法、質問法のムード形式をもつが、はたらきかけ法（命令形、さそいかけ形）の形式をもたない。

幸喜方言の形容詞は、ha連用形（ほかのおおくの北琉球諸語ではsa連用形）に無情物の存在をあらわす動詞aNがくみあわさった第一形容詞がある。

第一形容詞のほかに、語幹相当のハダカの形式にコピュラeNをくみあわせて述語をつくり、ハダカの形式にnaをつけて連体修飾語をつくる第二形容詞がある。第二形容詞も第一

形容詞とおなじく人やものの特性や状態をあらわす。日本語の第二形容詞に相当し、形のうえで共通のものがおおい。

第二形容詞の述語形式を形つくるコピュラeNが存在動詞aNに似ること、周辺諸方言のおおくがjaNであり、下位方言の一部にaNがみられることなどから、幸喜方言のeNもjaN、あるいは、aNの音声的な変種であり、存在動詞aNの文法化したものであるとかがえる。したがって、幸喜方言の第一形容詞も第二形容詞も活用はaNに似る。

幸喜方言の形容詞には文法化したaNがふくまれるので、活用は、存在動詞aNに似る。しかし、非情物の存在動詞aNは、活用の型こそ動詞型だが、アスペクト、ヴォイス、やりもらいのカテゴリーを欠き、はたらきかけ法（命令形、さそいかけ形）の形式をもたない、もっとも動詞らしくない動詞である。

1.1 特性形容詞と状態形容詞

幸喜方言の形容詞も特性形容詞と状態形容詞にわけることができる。特性形容詞は、人やものにコンスタントにそなわっているポテンシャルな特徴をあらわす。特性形容詞のあらわす特性は、具体的な時間にしばられない、すなわち、時間的なありか限定をあたえられていない。

状態形容詞は、特定の具体的な時間のなかにあらわれる時間的なありか限定をもったアクチュアルな状態をあらわす。これまでの調査でえられた状態形容詞は、人の生理的な状態、心理的な状態をあらわすものがおおかった。心理的な状態や生理的な状態は、内的なものであり、状態の持ち主以外の第三者が知覚、体験することができない。人の生理的な状態も心理的な状態もその持ち主（主体）は一人称であり、ほとんどのばあい、主語は省略されている。

特性形容詞と状態動詞の連体修飾語としての機能のしかたにちがいがあある。過去形のあらわす意味にもちがいがああり、特性形容詞と状態形容詞への区分は、単純に語彙的な意味による分類ではなく、時間的なありか限定とのかかわりの中で文法的なものとかかわっていて、語彙・文法的な分類である。

すべての形容詞が特性形容詞と状態形容詞に二分割できるわけでない。単語ごとに固定しているわけではない。使用される条件によって特性をあらわしたり、状態をあらわしたりする形容詞もある。あるいは、多義的な意味として特性をあらわしたり、状態をあらわしたりする形容詞もある。

たとえば、自然現象をあらわす形容詞pigurahaN（冷たい）は、1）の例では発話時において知覚、体験して発した時間的なありか限定をあたえられた状態をあらわすが、2）の例では、時間的なありか限定をはぎ取られたポテンシャルな特性をあらわす。ものの状態をあらわす形容詞harahaN（辛い）は、3）の例「ku:nu cjaNpuru:ja harahaN（今

日のチャンプルーは辛い)」では、外的な条件（唐辛子を多く入れた）によって発生した状態を、具体的な個人の経験をとおして知覚された一時的、臨時的な状態をあらわす。それに対して、4）の例の「haraguso-ja harahaN（唐辛子は辛い）」は、知覚する主体が一般化されて背後にしりぞき、類概念としての主体のもつ特性としてあらわれる。harahaN（辛い）は、haraguso（唐辛子）に恒常的にそなわっている特性である。このばあい、語彙的な意味としてのpiguruhaN（冷たい）やharahaN（辛い）に変更は生じないが、時間的なありか限定性とかかわってポテンシャルな特性をあらわすか、アクチュアルな状態をあらわすかがことなる。

- 1) ku:-nu nisihazija aNci piguraharu-ja:.
(今日の 北風は とても 冷たいね。)
- 2) puju-nu nisihazija pigurahaN-do:.
(冬の 北風は 冷たいよ。)
- 3) ku:-nu cjaNpuru-ja harahanu kamaraN.
(今日の チャンプルーは、 辛くて、 食べられない。)
- 4) haraguso-ja nu:jakoN harahaN.
(唐辛子は 何よりも 辛い。)

apahaN（薄味だ）は、5）の例では主語のmisuziru（味噌汁）の状態をあらわしているが、人名詞が主語になっている6）の例では、述語のapahaN（浅薄だ）は、主語にさしだされる人の特性をあらわす。主語の名詞がものをあらわすか、人をあらわすかで語彙的な意味に変更が生じ、多義語化している。mucikahaN（難しい）は、7）の例では、構造物（漢字）の主語の特性としての難解さをあらわし、8）の例では主語によってさしだされる人の特性としての気難しさあらわしている。9）の例では省略された主語=主体（病人）の生理的な状態（生命維持の困難な状態）をあらわしている。7）、8）では特性形容詞としてふるまい、9）では状態形容詞としてふるまっている。複合形容詞ti:-ni:haNも10）の例では人の特性（のろい）をあらわし、11）の例では状態（手遅れだ）をあらわす。

- 5) ku:-nu misuziru-ja apahanu numaraN.
(今日の 味噌汁は 薄味で、 飲めない。)
- 6) anu cju:-ja kaNgeti munu: jaN. apahaN.
(あの 人は 考えて ものヲ 言わない。 浅薄だ。)
- 7) unu moNdai-ja mucikahatu wakaraN.
(その 問題は 難しい（難解な）ので、 分からない。)

- 8) anu cju:ja mucikahaN.
 (あの 人は 気難しい。)
- 9) aQcja:-madi muciga su:ra mucikahaN.
 (明日まで もつだろうか。 難しい。)
- 10) ari-ja ti:-ni:hanu nage: kakaisa.
 (彼は のろいから 長く かかるよ。)
- 11) na: ti:-ni:haNdoja. nama-ra-ja maniaraNsa.
 (もう 手遅れだよ。 今からは 間に合わないよ。)

幸喜方言の第一形容詞を単語づくりの観点から単純形容詞、複合形容詞、派生形容詞にわけ、それぞれがどのように形つくりられ、特性や状態をどのようにあらわすかを検討する。

単純形容詞は、日本語の第一形容詞と語根を共通にもつものがあるが、語根を共通にしながらも語彙的な意味のことなるものもある。また、基礎語彙でありながら、語根の形が日本語の第一形容詞とおおきことなるものもおおい。幸喜方言の動詞と日本語の動詞に共通のものがおおいことに比較すると、ふたつの言語の形容詞の語根の形のちがいは際だっている。

日本語との対応から、第一形容詞を次のみつつにわかる。

- A) 語根を共通にもち語彙的な意味も似かよっているもの
- B) 日本語と語根を共通にもつが、語彙的な意味にずれのあるもの
- C) 語根がことなるもの

2. 語根を共通にもち語彙的な意味も似ているもの

語根を共通にもつ形容詞は、特性をあらわす形容詞が状態をあらわす形容詞よりもおおい。そのなかでもものの特性をあらわす形容詞が人の特性をあらわす形容詞よりもおおい。

2.1 特性形容詞

特性をあらわす形容詞には、nagahaN長い、ubohoN重い、gaQsaN軽い、to:hoN遠い、sikahaN近い、takahaN高い、pikohoN低い、piruhaN広い、sibahaN狭い、pukahaN深い、aQsaN浅い、japarahaN軟らかい、acihaN厚い、akahaN赤い、kuruhaN黒い、siruhaN白い、harahaN辛い、amahaN甘い、si:haN酸い、ga:haN苦い、sipukarahaN塩辛い、sibuhaN渋い、usuhaN薄色の/薄味の、acihaN熱い、juruhaNゆるい、hawahaN香ばしい、kusahaN臭い、nuruhoNぬるい、arahaN粗い、arahaN荒い、humahaN細かい [こまい]、puruhaN古い、jaQsaN安い、japarahaN柔らかい、cju:haN強い、namahaN (切れ味が) 鈍らな、jo:haN

弱い、matahaN完全だ [全い] がある。おおくはものの特性をあらわすもので、wakahaN若い、masarahaN霊験あらたかだ [まさしい]、asamahaN見苦しい／さかしい [あさましい]、など、人の特性をあらわす形容詞はすくない。

ものの特性をあらわす形容詞のうち、harahaN (辛い) などのような味覚をあらわす形容詞は、先の3)、4)の例文でもしめたように、特性をあらわすだけでなく、一時的な状態をあらわすこともできる。そのことは、arahaN (荒い)、acihaN (熱い)、cju:haN (強い) などのほかの形容詞にもあてはまることである。

- 12) naci-ja pi: nagahaN.
(夏は 日ガ 長い。)
- 13) siracjagu-ja gaQsaN.
(ホルトノキは 軽い。)
- 14) na:hwa-ja to:hoN.
(那覇は 遠い。)
- 15) akidaka-jako isidaki-ja kuteNgwa takahaN.
(明高山より 石岳は 少し 高い。)
- 16) ama-nu ja:ja sibahatu munu: ukaraN.
(むこうの 家は 狭いので 物ヲ 置けない。)
- 17) puju-ja nami arahaN.
(冬は 波ガ 荒い。)
- 18) pa: cju:hanu u:gi: gasanai kami:suN.
(歯ガ 強くて、 甘蔗ヲ ガリガリと 食べれる。)
- 19) uri-ga naQpi cju:hane jamaNsi-ga-N piki:saN.
(それ(罨)が もう少し 強くければ、 猪デモ 引けない。)
- 20) ari ene matahaN.
(あれ だったら 良い (完全だ)。)
- 21) anu cju:-ja zinimo:ki-nu kutu-Nka kaNge:ti asamahaN.
(あの 人は 金儲けの 事ばかり 考えて あさましい。)
- 22) anu juta-ja masarahanu ju: ataiN.
(あの ユタは 霊験あらたかで よく あたる。)

2.2 状態形容詞

状態をあらわす形容詞もみられるが、語根のことなる形容詞 (C) に属する状態形容詞にくらべると、人の心理的な状態や生理的な状態をあらわす形容詞がすくない。

upohoN多い、icjunahaN忙しい[暇なし]、acihaN暑い、nukohoN温い、kurahaN暗い、
 ahasaN明るい、kibohoN煙い、o:haN青い（未熟だ）、ma:haN美味しい、ku:haN濃い味だ、
 jagamahaN喧しい、mucikahaN難しい、uremahaN羨ましい、ukahaNおかしい、
 uturahaN恐ろしい、umuhaN面白い、tanumahaN頼もしい、sabihaN寂しい、
 kasimaraNかしましい、nitahaN恨めしい[妬し]、pazikahaN恥ずかしい、darohoNだるい、
 waQsaN悪い、

存在

- 23) ku:-ja cju: upohotu akine:gupahaN.
 (今日は 人ガ 多いので、 商売しづらい。)
- 24) ku:-nu asabaN-nu me:-ja upohonu kami:saN.
 (今日の 昼食の 飯は、 多くて 食べられない。)
- 25) ku:-ja icjunahaN. aga tei nagu-Ngati-ja ikaraNsa.
 (今日は 忙しい。 私たち 二人、 名護には 行けないよ。)

ものの状態

- 26) unu to:pu-ja nutunutusi ukahanu kamaraNsa:.
 (その 豆腐は、 ねとねとして あやしくて、 食べられないよ。)
- 27) unu basonai-ja na:ma umaNtu sibuhaN.
 (その バナナは まだ 熟まないの で 渋い。)
- 28) unu tomato:-ja o:hanu na:ma muraraN.
 (その トマトは 青くて まだ 収穫できない。)
- 29) u:bi-nu juruhaN.
 (帯が ゆるい。)
- 30) anu ikiga-ja hi:dakahanu kasimaraN.
 (あの 男は 声高で かしましい。)

場所の状態

- 31) ku:-ja ami: puranu asa-ra nukohoN.
 (今日は 雨ガ 降らず、 朝から 暖かい。)
- 32) ama:-ja ahagatusuga ma:-ja kurahaN.
 (向こうは 明るいが、 ここは 暗い。)
- 33) pi:-nu mugeti kibohonu munu: ma:raN.
 (火が 燃え上がって 煙たくて、 物ヲ 見られない。)
- 34) ku:-ja nami-nu arahanu puni izjaharaN.
 (今日は 波が 荒くて、 船ヲ 出せない。)

3. 日本語と語根を共通にもつが、語彙的な意味にずれがみられるもの

hatahaN濃い/密な [かたい]、hupahaN濃い・固い [こわい]、apahaN薄味だ [淡い]、ajahaNあぶない [妖しい]、nagehaN久しい [ながい]、kirinahaNきれい好きな [きれいな]、kirira:haN清潔だ [きれいな]、kurahaNきれいだ [清らかだ]、mucihaN餅味がある [餅]、hanahaN愛しい [愛し]、atarahaNもったいない [あたらし]、nacikahaN悲しい [なつかしい]、icjahaN惜しい [痛い]、gaNzju:haN元気だ・丈夫だ [頑丈だ]、

- 35) unu sjo:ju-ja hatahanu imi-ra:haN.
(その 醤油は 濃くて 使い出がある。)
- 36) josinagasajuri-ja kurahanu huto: inagu-ra:haN.
(吉永小百合は きれいで 本当に 女らしい。)
- 37) muQcjaNgi:ra sukotenu eNmuci-ja mucihaN.
(モチノキから 作った 鳥もちは 粘っこい。)
- 38) ku:-nu me:-ja hupanu sarasara suN.
(今日の 飯は 固くて さらさら している。)
- 39) anu mi:tuNba hupahanu¹ o:e-Nka suN.
(あの 夫婦、 不仲で、 喧嘩ばかり している。)
- 40) buru hanahasuga pacima:ga-ja kawati hanahaNja.
(みんな 愛しいが、 初孫は 特に 愛しいね。)
- 41) jaririwa-ru sitirairu. unu kinu-ja na:ma kiraitu atarahaN.
(破れたら 捨てられるのだ。その 服は まだ 着られるから もったいない。)

4. 語根がことなるもの

語根のことなる形容詞のなかでは状態形容詞が特性形容詞よりもおおく、とくに人の心理的な状態、生理的な状態をあらわす形容詞がおおい。

ものの特性をあらわす形容詞には、magigaN大きい、gunahaN小さい、ku:haN小さい/幼い、iNka:haN短い、piQseN薄い、sigahaNまばらな、urohoN細い、sakuhaN脆い、supohoN柔らかく固い、mi:haN新しい、ubehaN危ない／危険だ、ciwira:haN立派だ、do:hoN耐久力がない、janahaN醜い、などがある。

人(動物をふくむ)の特性をあらわす形容詞には、sikahaN臆病だ、jeNdahaN優しい、kamarahaN気難しい、upujaQseN温順だ、su:rahaN素晴らしい、so:rahaN素晴らしい、uzira:haNかわいい、binarahaNひ弱だ、doNnahaN動きが鈍い、guruhaNすばしこい、

1 hupahaN (固い) はものの特性をあらわす形容詞だが、mi:tuNba (夫婦)、ko:de: (兄弟)、ujaQkwa (親子) などの名詞を主語にしてそのメンバー間の不仲な関係をあらわす。

sicjura:haN丸々とした、cibira:haNきびきびした/かいいいしい、uzira:haNかわいい、などがある。

- 42) siNgi-ja sakuhaN.
(椎の木は 脆い。)
- 43) unu kwa: du:-ja gunahasuga gute: aitu magiisi etiN mucisuN.
(その子、体は 小さいが、力ガ あるので、大石 でも 持てる。)
- 44) anu kwa:-ja sikahanu duQci-ja wa:puru-Ngati iki:saN.
(あの 子は 小心で、一人では 便所に 行けない。)
- 45) unu kwa:-ja guruhanu hasimiraraN.
(その 子は すばしこくて 捕まえない。)
- 46) kisimutagwa-nu hituuja-ja kamarahataN.
(岸本家の 舅は 気難しかった。)

ものや場所の状態をあらわす形容詞には、pi:haN寒い、pigurahaN冷たい、sidahaN涼しい、gi:haN不味い、si:haN(衣服等が)窮屈だ、ibahaN狭い、ikerahaN少ない、udohoN不十分だ、sigahaN疎らだ、uka:haN危なっかしい/危ない、naNdurohaNすべっこい、naNburahaN滑らかだ、ni:haN遅い、pagarahaN少なめだ、jucihaNゆとりがある、pagohoN不潔だ、musara:haN荒れ模様だ、hazjohoN強風だ、uruhaN締め弱い、itahaN良い、ikirahaN(少ない)ja:haN足りない、などがある。

- 47) cja:cja-ga sugaisu-ja gi:haN.
(父が 料理するのは 不味い。)
- 48) unu kinu-ja si:hanu kiraraN
(その 服は 窮屈で 着られない。)
- 49) aNda: sikatatu naNburahanu do:gu hasimiraraN.
(油ヲ 使ったから、(手が) すべっこくて、道具ヲ 掴めない。)
- 50) ari-ja gute: ikirahanu magiisi-ja pisagisaN.
(彼は 力ガ なくて、大石は 持ちあげられない。)
- 51) umi-nu ariti musara:haN.
(海が 荒れて 荒れ模様だ。)
- 52) ku:-nu nisihazi-ja aNci piguraharu-ja:.
(今日の 北風は とても 冷たいね。)

- 53) ama-ja hazi ku:tu sidahaN.
(あそこは 風ガ 来るから 涼しい。)
- 54) ku:-ja hazjohonu ja:du gatamिकासuN.
(今日は 強風で 戸ガ ガタガタしている。)
- 55) irumi ikirahaneja kuraharaN.
(収入ガ 少なければ、暮らせない。)
- 56) ku:-nu suri-ja cju: ikirahanu kaigi naraN.
(今日の 集会は 人ガ 少なくて、会議ガ できない。)
- 57) nu:gara ja:haNdo:. zini-nu-ru ja:hasani.
(何か 足りないよ。金ガ 足りないんだろう。)

生理的状态をあらわす形容詞には、ja:haNひもじい、binarahaN病弱だ、go:hoN痒い、pasiko:haN痒い、kucihaNきつい、aNmahaN体調がわるい、ikigirahaN息苦しい、i:go:hoNえぐい、sicjura:haN丸丸とした、などがある。

- 58) pi:zja-ja ja:hane be:nai nakuN.
(ヤギは ひもじいと めえめえ 泣く。)
- 59) wanu aNmahasuga kunuhu e:neja kamaiNdoja.
(私、体調わるいけど、みかん なら、食べられるよ。)
- 60) pana: hatamati ikigirahaN.
(洩ガ 固まって 息苦しい。)
- 61) ja:-nu ibahanu ikigirahaN.
(家が 狭くて 息苦しい。)
- 62) ta:ma:mu-nu ha: mucjatu ti: go:hoN
(田芋の 皮ヲ 剥いたから 手ガ 痒い。)
- 63) ju:bi-ja gazjami-ni ku:raQti go:hotaN
(昨夜は 蚊に 食われて 痒かった)。
- 64) ja: ti:-ja pigurahaNja:.
(貴方ノ 手は 冷たいね。)
- 65) me:hai si:neja du:buru pasiko:honu kuraharaNtaN.
(稲刈りヲ したら 体中ガ 痒くて、暮らせなかった (たまらなかった)。

人の心理的な状態をあらわす形容詞には、sikara:haN心細い、anagacisaN懐かしい、usohoNうれしい、irike:haNうれしい、pirumahaN不思議な、saitarahaN不思議だ、

nagurahaN物悲しい、jo:sumahaN薄気味悪い、miQkwahaN憎い、miNcjahaN（うるさい）などがある。

- 66) ikana gunahanu nige: e:taNte:kaN kanaineja usohoNja:.
 (どんな 小さな 願いで あっても かなったら うれしいね。)
- 67) nige: kanati irikihaNja:.
 (願いが かなって うれしいね。)
- 68) kwa:-nu tanumahatu kukuru: juruci tacijaQseN.
 (子が 頼もしいので、 心ヲ 許して (安心して) 暮らしやすい。)
- 69) wakahasuta mi:neja uremahaN.
 (若いのヲ みると うらやましい。)
- 70) anu cju:-nu panasi-ja apahanu usoku neN.
 (あの 人の 話は 深みがなくて、 面白く ない。)
- 71) awija:-ga uineja miNcjahanu niNbaraN.
 (おしゃべりが いると うるさくて 眠れない。)

人やものの特性をあらわすとき、人やものの部分や属性から特徴づけることもできる。日本語だと「人は《部分・属性》がどんなだ」の「～ハ ～ガ どんなだ」の構文であらわされるが、幸喜方言では《部分・属性》をあらわす文の部分はハダカ格であらわれる²。この構文では、文末の形容詞が主語=主体の特性をあらわすのではなく、「taki takahaN (背が高い)」身体部分と形容詞の2単語からなる合わせ述語である。

ha:pa-ja mimi: to:hoN.
祖母は 耳ガ 遠い。
 主語 述語

- 72) waQta ha:pa-ja mimi: to:honu kiki:saN.
 (うちノ 祖母は 耳ガ 遠くて、 聞けない。)
- 73) anu cju:-ja ti:gusi: waQsanu pিরeraraN.
 (あの 人は、 手癖ガ 悪くて (盗癖があつて)、 付き合えない。)

2 対比をあらわすとりたて助辞ja (は) を後接させたり、格助辞ga (が)、nu (が) を後接させて指定強調をあらわしたりすることもある。

unu kwa: du:-ja magihasuga gute:-nu jo:hanu magiisi-ja muc:saN.
 (その 子、 体は 大きいが、 力が 弱くて、 大石は 持てない。)

- 74) oto:ja taki takahasuga oka:ja pikohoN.
 (父は 背ガ 高いが 母は (背が) 低い。)
- 75) ari-ja gute: ikirahanu magiisi-ja pisagisaN.
 (彼は 力ガ なくて、 大石は 持ちあげられない。)
- 76) ama-nu ja:ja siki takahanu i:gorohoN.
 (向こうの 家は 敷居ガ 高くて 入りにくい。)
- 77) ba:ki-ja mi:-nu arahasuga mi:zjo:ki-ja humahaN.
 (筧は 目ガ 粗いが、 箕は (目ガ) 細かい。)

このタイプの合わせ述語は、慣用句化が進行していて、合わせ述語を構成する単語の語彙的な意味に変更が生じているものもある。また、複合語化が進行してアクセント型の変更が生じたものもある。たとえば、次の例の「ga: jo:haN」は「忍耐力がない。ねばりがない。」の意味で使用され、「ga:jo:haN」のように1単語のように発音されることが多い。両者は異形態のような関係にある。

- 78) arija ga[: jo]:[haN. ~arija ga:jo]:[haN.³
 (彼は 我ガ 弱い。)

5. 複合形容詞

名詞を前要素にもつ複合形容詞、動詞を前要素にもつ複合形容詞がある。単語づくりの要素となる動詞の連用形が複合形容詞の前要素となる。

5.1 名詞を要素にもつ複合形容詞

複合形容詞の前要素になる名詞には人の体の部分や属性をあらわすものが多い。2単語の合わせ述語なのか、1単語の複合語なのかわかりづらいが、連濁をおこしていれば明確に1語であると判別できるし、アクセントでも判別できる。複合形容詞をとりたてるとき、単純形容詞とおなじような分析的な形になる。間をおかずに発音されたものを本稿では複合形容詞とかがえる。

- waQsaN (悪い) waQsa-ja aiN (悪くは ある)
 kuci waQsaN (口ガ悪い) kuci-ja waQsaN (口は悪い)
 kuciwaQsaN (意地悪だ) kuciwaQsa-ja aiN (意地悪では ある)

3 例文中の[は、アクセントの上がり核を、]は下がり核をあらわす。

前要素になる名詞には、人の身体部分や属性をあらわす名詞、その他の名詞にわけることができる。身体部分や属性などをあらわす名詞を前要素にもつ形容詞は、119例あり、名詞要素をもつ形容詞全175例の約7割を占める。

身体部分をあらわす名詞には、kuci (口)、ti: (手)、mi: (目)、pisa (足)、ciwi (尻)、du: (胴)、cira (顔)、puni (骨)、nada (涙)、wata (腹)、hara (体)、mani (尻)、pa: (歯)、pada (肌)、kusi (腰)、kui (首)、ciburu (頭)、hamaci (顎)、hata (肩)、mini (胸)、mimi (耳)、ciru (筋)、hazi (腱) などがあり、属性をあらわす名詞には、kimu (肝・心)、ki: (気)、kukuru (心)、nuci (命)、hi: (声)、kaN (勘)、tusi (年)、gute: (力)、te: (力)、taki (背丈)、zjo: (情)、nasaki (情け) などがある。

kimu (肝・心) を前要素にもつ複合形容詞には、人の特性をあらわす kimu-gunahaN (内気だ)、kimu-icjunahaN (気ぜわしい)、kimu-gurahaN (心がきれいだ)、kimu-aQsaN (浮気性だ)、kimu-gaQsaN (軽薄だ)、kimu-sipurahaN (偏屈だ)、kimu-nagahaN (気長だ)、kimu-be:haN (目覚め早い)、kimu-magihaN (大胆だ) がある。人の心理的な状態をあらわす kimu-ganahaN (愛しい)、kimu-icjahaN (可哀そうだ)、kimu-aNmahaN (気が重い・億劫だ)、kimu-sabihaN (うら寂しい)、kimu-sikara:haN (わびしい)、kimu-nagurahaN (もの悲しい)、kimu-nacikahaN (悲しい／涙ぐましい)、kimu-pazikahaN (気恥ずかしい) があり、人の生理的な状態をあらわす kimu-ubohoN (気が重い)、kimu-pagohaN (厭らしい) などがある。

- 79) anu ikiga-ja kimu-gunahanu cju:-nu me: izi:saN. (gunahaN小さい)
(あの 男は 内気で、 人の 前ニ 出られない。)
- 80) nage kwa:muja sa:tu kimu-ganahanu panariraraN. (hanahaN愛しい)
(長らく 子守ヲ したので 愛しくて 離れられない。)
- 81) kwa: nakutu kimu-icjahanu mi-N naraN. (icjahaN痛い)
(子どもガ 泣くので、 可哀そうで 見も できない。)
- 82) ja-Nti su:gi si:neja kimu-icjunahanu uticikaN. (icjunahaN忙しい)
(家で お祝いヲ すると 気ぜわしくて 落ちつかない。)
- 83) cikaguru-ja siwagutu upohonu kimu-aNmahaN.
(近頃は 心配事ガ 多くて 気が重い。)
- 84) poro-ra ke:tizi utati kimu-aNmahanu nu-N si:busaku neN.
(畑から 帰ってきて 疲れて 億劫で 何も したく ない。)
- 85) unu cju:-ja kimu-aQsanu sugu kawaiN. (aQsaN浅い)
(その 人は 浮気っぽくて すぐニ (気が) 変わる。)

86) iNdo-nu gaNzi:saN-ja kimu-gurahaN. (kurahaNきれいだ)
 (インドの ガンジーさんは 心ガきれいだ。)

87) anu cju:-ja nu-N kaNge:raN kimu-gaQsaN. (gaQsaN軽い)
 (あの 人は 何も 考えず 軽薄だ。)

kukuru (気・心) を前要素にもつ複合形容詞には、人の特性をあらわすkukuru-gurahaN (潔白だ)、kukuru-be:haN (目覚めが早い) と、心理的な状態をあらわすkukuru-zju:haN (心強い) がある。

88) waQta ha:pa-ja kukuru-be:hanu pe:ku ukiN. (pe:haN早い)
 (うちノ 祖母は 目覚めが早くて 早く 起きる。)

89) ja:ga uri si: tutasine kukuru-zju:haN. (cju:haN強い)
 (きみが それヲ して くれたら 心強い。)

ki: (気・心) を前要素にもつ複合形容詞には、人の特性をあらわすki:-gaQsaN (せっかちだ)、ki:-guruhaN (せっかちだ)、ki:-zju:haN (気ガ強い)、ki:-dakahaN (生意気だ)、ki:-ni:haN (悠長だ)、ki:-be:haN (気ガ早い)、ki:-jo:haN (気弱だ) がある。人の心理的な状態をあらわすki:-ganahaN (愛しい) がある。

90) ki:-zjuhanu cju:-ja o:ra:o:ra: suN. (cju:haN強い)
 (気ガ強い 人は 喧嘩したがる。)

91) ki:-guruhanu cju:-ja ju: pukaN madu cja: iriN. (guruhaNすばしこい)
 (せっかちな 人は 湯ガ 沸かない うちニ 茶ヲ 入れる。)

92) anu cju:-ja wakahasuga ki:-dakahanu upuNcju-Ngati ge: sikaiN.(takahaN高い)
 (あの 人は 若いガ、 生意気で 大人に 反抗する。)

cira (顔) を前要素にもつ複合形容詞には、心理的な状態をあらわすcira-apahaN (面はゆい)、cira-pazikahaN (気恥ずかしい)、cira-miQkwahaN (憎らしい) があり、生理的な状態をあらわすcira-ubohoN (顔ガ重い・寝起き時の状態) がある。cira-pazikahaN (気恥ずかしい)、cira-miQkwahaN (憎らしい) は、前要素のないpazikahaN (恥ずかしい)、miQkwahaN (憎らしい) でもほぼおなじ意味をあらわすことのできる類義語である。

93) kaQsa-nu cju:-nu me-Nti panasi: su:su-ja cira-pazikahanu si:saN.
 (多くの 人の 前で 話ヲ するのは、気恥ずかしくて、(私には) できない。)

ti: (手) を前要素にもつ複合形容詞には、人の特性をあらわすti:arahaN (手荒だ)、ti:ni:haN (所作がのろい／手遅れだ)、ti:gupahaN (不器用だ)、ti:nagahaN (盗癖がある)、ti:be:haN (手早い／喧嘩っ早い) がある。おなじく、人の生理的な状態をあらわすti:ubohoN (手が重い)、ti-daQsaN (手が怠い)、ti-darohoN (手が怠い) がある。人の心理的な状態をあらわすti:pagohoN (じれったい) がある。人やものの関係をあらわすti:zikahaN (手近だ／近所だ) がある。

94) anu cju:ja ti:nagahatu uQkatu pিরeraraN. (nagahaN長い)

(あの人は 盗癖があるので、うっかり 付き合えない。)

95) ma:ma:ja ti:gupahanu ti: puisaN. (hupahaN固い)

(姉は 不器用で、手ヲ 振れない (踊れない)。)

96) warai-nu su:su:ja ti:pagohonu ma:raN. (pagohoNくすぐったい)

(子どもが するのは はがゆくて 見ていられない。)

pisa (足) を前要素にもつ複合形容詞には、生理的な状態をあらわすpisa-gaQsaN (足が軽い)、pisa-daQsaN (足がだるい)、pisa-darohoN (足がだるい)、pisa-ubohoN (足が重い) があり、心理的な状態をあらわすpisa-pagohoN (二の足を踏む) がある。

97) ku:ja aQkizju:hanu ziko pisa-ubohoN.

(今日は 歩きすぎて とても 足が重い。)

98) ma:ja pau uigisanu pisa-pagohoN.

(そこは ハブガ 居そうで 二の足を踏む。)

kuci (口) を前要素にもつ複合形容詞には、人の特性をあらわすkuci-pagohoN (口汚い)、kuci-be:haN (早口だ)、kuci-gaQsaN (口軽だ)、kuci-aQsaN (口軽だ)、kuci-gupahaN (無口だ)、kuci-waQsaN (口が悪い、意地悪だ)、kuci-magihaN (口が大きい) などがあり、人の生理的な状態をあらわすkuci-gi:haN (食欲がない)、kuci-sabihaN (口淋しい)、kuci:i:gohoN (えぐい)、kuci-aNmahaN (めんどうくさい)、kuci-ubohoN (口が重い)、kuci-darohoN (口が怠い) などがある。

99) anu cju:ja kuci-be:hanu nu:ga ju:ra wakaraN. (pe:haN早い)

(あの人は 早口で、何ヲ 言っているのか、分からない。)

100) anu cju:ja kuNzjo:rahanu kuci-waQsaN. (waQsaN悪い)

(あの人は 怒りっぽくて 意地悪だ。)

- 101) ari-ja kuci-gaQsanu ari-Ngati-ja nu-N ja:raN. (gaQsaN軽い)
 (彼は 口軽で、 彼には 何も 言えない。)
- 102) ku:ja kuci-gi:hanu munu: ma:ku neN. (gi:haN不味い)
 (今日は 食欲がなくて 食事が 美味しく ない。)
- 103) ta:mamu kadatu kuci-go:haN. (i:go:haN痒い)
 (田芋ヲ 食べたので えぐい。)
- 104) ta:mamu-N ciNnuku-N kuci-go:hatu kamibusaku neN. (i:go:haN痒い)
 (田芋も サトイモも えぐいので 食べたく ない。)
 ※上の159)と160)のkucigo:haN(えぐい)も状態と特性をあらわす。

wata(腹)を前要素にもつ複合形容詞には、人の特性をあらわすwata-jo:haN(腹が弱い) wata-zju:haN(健胃だ)と、生理的な状態をあらわすwata-pe:haN(満腹だ)がある。

- 105) anu cju:ja wata-jo:haN. nu: kadiN sagiN.
 (あの 人は 腹が弱い。 何ヲ 食べても 下痢をする。)
- 106) anu cju:ja wata-zju:haN.
 (あの 人は 腹が強い。)
- 107) ku: munu kamizju:hanu wata-pe:haN.
 (今日 飯ヲ 食べ過ぎて、 腹いっぱいだ。)

mini(胸)を前要素にもつ複合形容詞には、mini-pigurahaNがある。

- 108) kuruma-ga buQtamakaci tu:ti mini-pigurahataN. (pigurahaN冷たい)
 (車が 急に 通って 肝を冷やした。)
- 109) ari-ga su:su-ja mini-pigurahaN. (pigurahaN冷たい)
 (彼が するのは 心配だ。)

ki:(毛)を前要素にもつ複合形容詞には、ki-zju:haN(毛深い)、ki-bukahataN(毛深い)がある。ふたつの複合形容詞はほぼ同じ意味をあらわす⁴。いずれも人の特性をあらわす。

4 また、下の例のように、ki:ma:(毛深い人)を述語にもつ名詞述語文でもおなじ意味をあらわすことができる。

ko:cigwa-nu ikigata-ja ki:ma: etaN.
 (幸地家の 男たちは 毛深 だった。)

110) ko:cigwa:-nu ikigata-ja ki:-zju:hataN.

(幸地家の 男たちは 毛深かった。)

111) ko:cigwa:-nu ikigata-ja ki:-bukahataN.

(幸地家の 男たちは 毛深かった。)

hi: (声) を前要素にもつ複合形容詞には、hi:-gurahaN (美声だ)、hi:-dakahaN (声高だ) がある。いずれも人の特性をあらわす。

112) anu cju:-ja hi:-gurahaN. (hi:声+kurahaNきれいだ)

(あの 人は 美声だ。)

113) anu ikiga-ja hi:-dakahanu kasimarahaN. (hi:声+takahaN高い)

(あの 男は 声高で かしましい。)

kaN (勘) を前要素にもつ複合形容詞には、kaN-be:haN (敏感だ)、kaN-ni:haN (鈍感だ) があって、いずれも人の特性をあらわす。

114) unu cju:-ja kaN-be:hanu gumane: etiN wakaiN. (kaN勘+pe:haN早い)

(その 人は 敏感で 小地震でも 分かる。)

115) unu cju:-ja kaN-ni:hanu ne: jutiN wakaraN. (kaN勘+ni:haN遅い)

(その 人は 鈍感で 地震が 来ても 分からない。)

そのほかに、juku (欲) を前要素にもつjuku-zju:haN (欲張りだ)、hara (体) を前要素にもつ、hara-jo:haN (病弱だ)、te: (力) を前要素にもつte:-zju:hanN (力持ちだ)、du: (体・胴) を前要素にもつdu:-gaQsanu (すばしこい)、kazi (筋) を前要素にもつkazi-zju:haN (筋っぽい)、ga: (我) を前要素にもつga:-zju:haN (強情だ)、iru (色) を前要素にもつiru-gurahaN (きれいだ) などがある。身体部分や属性をあらわす名詞が前要素になっていて、人の特性や生理的な状態をあらわす複合形容詞である。

116) anu cju:-ja juku-zju:haN.

(あの 人は 欲張りだ。)

117) kiku-ja te:-zju:hanu u:gi: tatawai hatami:sutaN. (te:力+cju:haN強い)

(菊さんは 力持ちで、 甘蔗ヲ 二束 担げた。)

118) maNgu:su-ja du:-gaQsanu turaraN. (du:胴+gaQsaN軽い)

(マングースは すばしこくて 取れない。)

- 119) humi-jako juri-ja ga:-zju:haN.
 (フミより 百合は 強情だ。)
- 120) anu inagu-ja wakahanu iru-gurahaN.
 (あの 女は 若くて きれいだ。)
- 121) pu:pu-ja hara-jo:hanu niNti-Nka uiN. (hara体+jo:haN弱い)
 (祖父は 病弱で 寝てばかり いる。)
- 122) de:kuni-ja pataki-ni nage: ukine: kazi-zju:hanu kamaraN. (kazi筋+cju:haN強い)
 (大根は 畑に 長く 置くと、筋っぽくて 食べられない。)

複合形容詞の前要素になるそのほかの名詞には、utu (音)、kuzi (籤)、akine: (商い)、ujaQkwa (親子)、ko:de: (兄弟)、imi (夢)、munu (物)、amami (甘味)、acimi (厚み)、aNda (油)、piru (ニンニク)、pu:ki (流行病) がある。数もかぎられ、生産性もひくい。

ものの特性

- 123) unu sumuci-ja acimi-bukahaN.
 (その 書物は 分厚い。)
- 124) ho:ki-nu janagibusi-ja utu-dakahaN. (utu音+takahaN)
 (幸喜の 柳節は 有名だ。)

人の特性

- 125) puda ho:tasuga, kuzi-gupahanu ataraNtaN. (kuzi籤+hupahaN固い)
 (宝籤ヲ 買ったが、(私は)籤弱くて 当選しなかった。)
- 126) anu cju:-ja irumi-jaQsanu nu:-ga aitaru sugu wakaiN.
 (あの 人は 現金だから 何が あったのか すぐニ 分かる。)
- 127) anu ne:saN-ja akine:-gupahaN. (akine:商い+hupahaN固い)
 (あの ねえさんは 商売下手だ⁵⁾。)
- 128) ku:-ja cju: ikirahatu akine:-gupahaN.
 (今日は 人ガ 少ないので、商売しづらい。)

関係

- 129) ama-nu ja:-ja ujaQkwa-gupahaN. (ujaQkwa親子+hupahaN固い)
 (向こうの 家は 親子不仲だ。)
- 130) ama-nu ja:-ja ko:de:-gupahaN. (ko:de:兄弟+hupahaN固い)
 (向こうの 家は 兄弟不仲だ。)

5 akine:-gupahaNは、特性形容詞としても状態形容詞としてもあらわれ、127) の例では特性を、128) の例では状態をあらわしている。

人の心理的な状態

131) siniNcju-nu imi-Nka mici imi-kasimarahaN. (imi夢+kasimarahaNかしましい)
(死んだ人の 夢ばかり 見て 夢見悪い。)

132) ja:-ni simisu-ja munu-ajahaN. (munuもの+ajahaN怪しい)
(あなたに (仕事を) させるのは 心もとない。)

133) unu wa:-ja munu-gunahanu jakaraN. (munu物+gunahaN小さい)
(その 豚は 小さくて 焼けない。) ※肥育年数はたっているが成長が遅い。

134) mazjuN mi: natusuga hatapara-ja magihasuga hatapara-ja munu-gunahaN.
(同時に 実が 生っているが、一方は 大きい、一方は 小さい。)

ものの状態

135) sa:ta-ga upohonu amami-zju:haN.
(砂糖が 多くて 甘すぎる。)

136) ku:-nu iricja:-ja aNda-zju:hanu kamaraN. (aNda油+cju:haN強い)
(今日の イリチャーは、脂っこくて、 食べられない。)

137) maipagi:-ja aNda-be:haneja ma:ku neN. (aNda油+pe:haN多い)
(丸ドーナツは 脂っこければ 美味く ない。)

138) ma:-ni ju: sititetu piru-gusahaN. (piru:大蒜+kusahaN臭い)
(そこに 魚ヲ 捨てたので、生臭い。)

139) hata-ni hatamiti aQkine atu-ubohoN.
(肩に 担いで 歩くと 後ろが重い。)

140) unu ni:-ja me:gaQsatu ja:-ja me: nare:.
(その 荷は 前軽だから 君は 前ニ なれ。)

社会的な状態

141) cikaguru pu:ki-gamarahatu ki: sikirijo. (kamara:haN気難しい)
(近頃 病気が流行っているから 気ヲ つけるよ。)

5.2 動詞を要素にもつ複合形容詞

pusaN (欲しい)、cju:haN (強い)、pe:haN (早い)、ni:haN (遅い)、hukahaN (深い)、kurahaN (きれいだ)、nagehaN (長い)、kanahaN (愛しい)、acihaN (暑い) などが動詞連用形と結合して複合形容詞をつくる。pusaN (欲しい)、cju:haN (強い)、ja:haN (足りない) のように生産性がたかく、おおくの複合動詞をつくることができるものあれば、kurahaN (きれいだ)、nagehaN (長い)、kanahaN (愛しい)、acihaN (暑い) のように生産性のたかくないものもある。

動詞要素の複合形容詞にも特性形容詞と状態形容詞がある。特性をあらわす動詞派生の

形容詞は、主語にさしだされる人やものが動作や変化を実現させる能力を特性としてさしだす。あるいは、実現する動作や変化の多寡を特性としてさしだす。

状態をあらわす形容詞は、動詞のさしだす動作や変化の実現に対する話し手の感情=心理的な状態をさしだしたり、動作や変化の実現によって生じた生理的な状態をさしだしたり、実現した動作や変化の程度を状態としてさしだしたりしている。

動詞要素を前要素にもつ複合形容詞は、前におかれる名詞に対する格支配をそのまま保存している。その意味で動詞性を保存しているといつてよい。しかし、主語のあらわす人やもの特性や状態をあらわし、述語としては形容詞の特徴をもっていて、アスペクトやヴォイスの形式をもたない。

pusaN (欲しい) を後要素にもつ動詞要素の複合形容詞は、動作実現に対する話し手の欲求を心理的な状態としてさしだす。

- 142) kisimutagwa:nu pu:pu-ni maipagi: ka:girasi-busaN. (ka:girasuN差し上げる)
 (岸本家の 爺さんに 砂糖天ぷらヲ 差し上げたい。)
- 143) juri, wanu hjaku-madi iki-busaN.
 (百合さん、私 百歳まで 生きたい。)
- 144) munu: kadatu niNbi-busaN. (niNbuN眠る)
 (飯ヲ 食ったから 眠りたい。)

cju:haN (強い) を後要素にもつ動詞要素の複合形容詞は、動作実現の程度のノーマルな状態を基準にして、それよりもおおいことをあらわす。おおくは基準をこえて実現した動作の間接的な結果が動作主体の生理的な状態として、あるいは動作客体の状態としてあらわれていることをあらわす。おおくはマイナス評価をふくんでいるが、一部にプラス評価をふくんだ人の特性をあらわす複合形容詞がある。

なお、日本語では動詞「過ぎる」を後要素にした複合動詞があらわすが、幸喜方言の後要素cju:haN (強い) は、形容詞には後接しない。日本語が複合動詞で表現し、幸喜方言が複合形容詞で表現することのちがいがどのような意味的なちがいを生じさせているかについては今後あきらかにしていかなければならない課題である。

- 145) harukuni-ja gasamiki-zju:hataN.
 (治国は 落ち着きがなかった。)
- 146) nama-nu sicjo:saN-ja kaNge:-zju:haN / kaNge:-zju:hanu cje: eN.
 (今の 市長さんは 思慮深い / 思慮深い 人だ。)

- 147) ja: kaNge:zju:haNdo: kaNge:zju:hane jaNme: ukuriNdo.
 (君ハ 考えすぎだよ。 考えすぎたら 病気ニ なるよ。)
- 148) unu kwaNtui-ja umi-zju:hanu kamaraN.
 (その パパイヤは 熟みすぎて 食べられない。)
- 149) ho:imunu si:ga ikusuga, irawi-zju:hanu piQci hakaiN.
 (買い物ヲ シニ 行くが、選び過ぎて 一日中 かかる。)
- 150) pu:pu-ja saki numi-zju:hanu aQki:saN.
 (祖父は 酒ヲ 飲みすぎて、 歩けない。)
- 151) ku: munu kami-zjo:honu wata-pe:hanu iraraN.
 (今日 飯ヲ 食いすぎて 腹いっぱい で 坐れない。)
- 152) aQki-zju:hanu pisa ubohotu na: aQkaraN.
 (歩き過ぎて 足ガ 重いので、 もう 歩けない。)
- 153) pe: maNdi-zju:hanu munu-N kwa:raN. (maNduNたくさんいる)
 (蠅ガ 多すぎて 食事も できない。)
- 154) gu:dujasi sa:suga amazjaki iri-zju:hanu si:hanu kamaraN.
 (和え物ヲ 作ったが、 酢ヲ 入れすぎて 酸っぱくて 食べられない。)
- 155) unu kinu-ja nu:i siki-zja:hanu piQpaikaQpai nati akaharaN.
 (その 服は 糊ヲ つけすぎて、 ゴワゴワニ なって 剥せない。)

ja:haN (足りない) を後要素にもつ動詞要素の複合形容詞に、munu-kami-ja:haN (食べ足りない)、saki-numi-ja:haN (飲み足りない)、simi-ja:haN (締め足りない) などがある。ja:haNを後要素にもつ複合形容詞は、動作実現の程度のノーマルな状態を基準にして、それよりもちいさいことをあらわす。おおくは基準以下に実現した動作の間接的な結果が動作主体の生理的な状態として、あるいは動作客体の状態としてあらわれていることをあらわす。

- 156) uja-ni ukuhaQti niNbi-ja:haN.
 (親に 起こされて 寝足りない。)
- 157) kamusu ikerahanu munu-kami-ja:haN.
 (食べるのガ 少なく て 食べ足りない。)
- 158) unu na:ja simi-ja:hatu naQpi cju:ku simire:.
 (その 縄は 締め足りないので、 もっと 強く 締めろ。)

pe:haN (早い) を後要素にもつ動詞要素の複合形容詞には、aQki-be:haN (速足だ)、ki-

be:haN (暮れ早い)、niri-be:haN (あきっぱい：niriN飽きる)、akipati-be:haNあきっぱい (akipatiN飽きはてる)、utu-muci-be:haN (弟持つのが早い)、kimu-kawai-be:haN (移り気だ)、kimu-noi-be:haN (気を取り直すのが早い) がある。いずれも前要素の動詞のあらわす動作や変化を実現する時間がはやいことをあらわす。

- 159) humi-ja aQki-be:haN. (aQkuN歩く)
 (フミさんは 速足だ。)
- 160) puju-ja pi:nu iNka:hanu juru: ki-be:haN.
 (冬は 日が 短くて 夜が 暮れ早い⁶⁾。)
- 161) cikaguru-nu warai-ja niri-be:haN. (niriN飽きる)
 (近頃の 子は 飽きっぱい。)
- 162) cju:i-be:hasu-ja utu-muci-be:haN. (utu弟+mucjuN持つ)
 (成長の早いのは 弟持つのが早い (次の子が早く生まれる。))
- 163) kimu-aQsanu cju-ja kimu-kawai-be:haN. (kimu肝+kawaiN変わる)
 (浮気っぱい 人は 移り気だ。)
- 164) juri-ja ziko kimu-noi-be:haN. (kimu肝+noi:N治る)
 (ユリは とても 気を取り直すのが早い。)

utu-muci-be:haN (弟持つのが早い)、kimu-kawai-be:haN (移り気だ)、kimu-noi-be:haN (気を取り直すのが早い) のような3単語の複合した形容詞があるのは興味深い。いずれも文あるいは句をつくっている単語から複合語をつくっている。munu-kami-ja:haN (食べたりない) も3単語からなる複合形容詞である。

- 165) munu-kami-ja:hanu ja:ku natuN. (munu食事+kamuN食べる)
 (食べ足りなくて 腹が へっている。) 状態

ni:haN (遅い) を後要素にもつ動詞要素の複合形容詞には、cju:i-ni:haN (回復が遅い)、ki-ni:haN (暮れ遅い)、munu-i-ni:haN (ことばが遅い) がある。いずれも変化や動作の実現の時間的なおそさをあらわす状態形容詞である。マイナス評価をふくんだ生理的な状態、場所の状態をあらわしている。

6 おなじ出来事を次の文のように、動詞述語文で表現することもできる。

puju-ja pi:nu iNka:hanu pe:ku juru: ki:N.
 (冬は 日が 短くて 早く 夜が 暮れる。)

- 166) jaNme:-ja no:tusuga na:ma: cju:i-ni:hanu poro-Ngati ikaraN.
 (病気は 治ったが、まだ 回復が遅くて、畑に 行けない。) (cju:iN強くなる)
- 167) tunai-nu kwa:-ja munu-i-ni:hanu na:ma: munu: jaN.
 (隣の 子は ことばが遅くて まだ ことばヲ 言わない。)
- 168) naci-ja kwi:-ni:hatu sicizi-madi ha:gatuN.
 (夏は 暮れ遅いので、七時まで 明るい。)

そのほかに、hukahaN (深い) を後要素にもつumi-bukahaN (思慮深い)、nagehaN (長い) を後要素にもつ i:-nagehaN (長居だ)、piru-i:-nagehaN (長便だ)、kurahaN (きれいだ) を後要素にもつasiwi-gurahaN (踊り上手だ)、acihaN (暑い) を後要素にもつsiputai-acihaN (蒸し暑い)、hanahaN (愛しい) を後要素にもつpanari-ganahaN (愛しい) がある。

- 169) anu cju:-ja umi-bukahatu macige: ne:N.
 (あの 人は 思慮深いから まちがいがない。)
- 170) ari-ja i:-nagehanu niriN. (i:N坐る)
 (あいつは 長居なので、いやになる。)
- 171) kisimutagwa:-nu maNzo:-ja asiwi-gurahataN. (asiuN遊ぶ)
 (岸本家の 萬蔵は 踊りがうまかった。)
- 172) ku:-ja siputai-acihanu asi: paiN. (siputaiN濡れる)
 (今日は 蒸し暑くて 汗が である。) 場所の状態
- 173) ku:hane: o:e-Nka sa:suga bici-Ngati jaracjatu panari-ganahaN.
 (幼いころは 喧嘩ばかりしたが(成長して) 別に 行かせたら いとしい。)
 (panariN離れる)

5.3 形容詞を要素にもつ複合形容詞

数はすくないが、形容詞usuhaN (薄い) を前要素にもつ複合形容詞usu-gurahaNがある。場所の状態をあらわす。類似の複合形容詞の有無については未確認である。

- 174) ama-nu ja:-ja deNki ka:ti usu-gurahaN.
 (向こうの 家は 電気が 消えて 薄暗い。)
- 175) naci etiN jozi-bikei-ja na:ma usu-gurahaN.
 (夏でも 四時くらいは まだ 薄暗い。)

6 派生形容詞

形容詞をつくる派生接辞をつけてつくる派生形容詞、形容詞に接頭辞をつけた派生形容詞がある。動詞連用形に派生接辞を後接させた派生形容詞と名詞に派生接辞を後接させた派生形容詞、形容詞語幹に派生接辞を後接させた派生形容詞がある。

6.1 動詞を前要素にもつ派生形容詞

派生形容詞をつくる派生接辞には、-jaQseN (～しやすい)、-gorohoN (～しにくい)、-duQkwahaN (～し過ぎだ)、-gisaN (～しそうだ)、-gatanahaN (～しにくい)、ra:haN (～らしい)がある。これら派生接辞は、動詞の連用形に後接して、人やものの特性、人の生理的な状態、心理的な状態などをあらわす派生形容詞をつくる。

-jaQseN (～しやすい) を後接させた動詞派生の形容詞は、動作や変化の実現をさまたげるものがなく、実現が容易であることを動作のはたらきかけをうける客体の特性として、あるいは主体の特性としてあらわしたり、動作や変化を容易に実現できる状態であることをあらわす。なお、-jaQseNと-jaQsaNは異形態である。-jaQseNは、価格が安価であることをあらわす形容詞jaQseNと同音であり、-jaQseNを後接させた形式を複合形容詞とみることもしできるが、jaQseN (安い) が単独で使用されるときに「容易である」の意味をもたないので、本稿では-jaQseNを後接させた形式を派生形容詞とした。

- 176) siNgi-ja sakuhanu wai-jaQseN. (waiN割る)
 (椎の木は 脆くて 割りやすい。)
- 177) siracjagu-ja gaQsanu wai-jaQseN. (waiN割る)
 (シラチャグの木は 軽くて 割りやすい。)
- 178) jasimineja ui-jaQseN.
 (安くしたら 売やすい。)
- 179) upujaQsanu cju:-ja pirei-jaQseN. (pireiNつきあう)
 (温順な 人は 付き合いやすい。)
- 180) kwa:-nu puduti nama-ja taci-jaQsaN. (tacjuN立つ)
 (子どもが 成長して 今は 暮らしやすい。)

-gorohoN (～しにくい) を後接させた動詞派生の形容詞は、動作や変化の実現がさまたげられて、実現が容易ではないことを動作客体の特性として、あるいは動作主体の特性としてあらわしたり、動作や変化の実現が容易ではない状態であることをあらわす。

- 181) izju-tu takaci-ja supohonu wai-gorohoN.
 (イジュと シャリンバイの木は 粘り強くて 割りにくい。)
- 182) ta:cju ma:risu-ja ai-gorohoN. (aiN有る)
 (双子ガ 生まれるのは 稀だ。)
- 183) mi: muduruci zi: mi-gorohoN.
 (目ガ ほやけて 字ガ 見づらい。)
- 184) humi-Ngati tanumigutu: aisuga nu:gara i-gorohoN.
 (フミさんに 頼みごとガ あるが、何だか 言いにくい。)
- 185) ama-nu ja:ja siki takahanu i-gorohoN.
 (向こうの 家は 敷居ガ 高くて 入りにくい。)
- 186) ama-nu ja:nu cju:ja mucikahatu ui-gorohoN.
 (向こうの 家の 人は 難しいので 居づらい。)
- 187) mi:terebi-ja botaN-ga maNdi acike-gorohoN.
 (新しいテレビは ボタンが 多くて 扱いにくい。)
- 188) anu cju:ja acike-gorohoN.
 (あの 人は 扱いにくい/使いにくい。)
- 189) unu jasai-ja takahatu ui-gorohoN.
 (その 野菜は 高くて 売りにくい。)
- 190) anu cju:ja pirei-gorohoN.
 (あの 人は 付き合いにくい。)
- 191) hituuja-nu mucikahanu kurasi-gorohotaN.
 (舅ガ むつかしくて 暮らしにくかった。)
- 192) ama-nu ja-Ngati ju:zju aisuga, icjunaha su:tu iki-gorohoN.
 (向こうの 家に 用ガ あるが、忙しく しているので 行きにくい。)

-duQkwahaN (～し過ぎだ) を後接させた動詞派生の形容詞は、cju:haN (強い) を後要素にもつ動詞要素の複合形容詞に似るが、cju:haN (強い) よりも生産性がない。動作実現の頻度の多寡を特性としてあらわす。

- 193) ja: i-duQkwahanu zikaN kweN. (i:N言う)
 (君 話し過ぎて 時間ヲ 食う。)
- 194) watakusi hazimi-duQkwahanu hameraraN. (hazimiN片づける)
 (へそくりヲ しまいすぎて、 探せない。)

- 195) tunai-nu pu:pu-ja urai-duQkwahaN. (urauN愚痴る)
 (隣の 爺さんは 愚痴っばい。)
- 196) unu warai-ja tu:i-duQkwahaN. (tu:iN問う)
 (その 子は 聞きたがりだ。)
- 197) ama-nu ja:ja tidei-duQkwahaN. (tideiNふるまう)
 (向こうの 家は ふるまい上手だ／接待上手だ。)
- 198) ari-ga panasi-ja i-duQkwahaN. (i:N言う)
 (彼の 話は 大げさだ。)

-gatanahaN (～しにくい) は、-gorohoN (～しにくい) とおなじく、動作や変化の実現がさまざまにあらわされ、実現が容易ではないことをあらわす派生接辞のようだが、生産性がいいのか、語例がすくない。今後の調査で確認したい。

- 199) uma-nu ja:ja siki takahanu iki-gatanahaN.
 (その 家は 敷居が 高く 行きにくい。)
- 200) bi:mata-ja nuike: aitu iki-gatanahaN.
 (為又は 乗り換えが あるから 行きにくい。)
- 201) maruke:ti-nu dusi etu wakari-gatanahaN.
 (久しぶりの 友人 なので 別れがたい。)
- 202) ari-ga panasi-nu uwaraNtu ke:i-gatana:haN.
 (彼の 話が 終わらないので 帰りにくい。)

-gisaN (～しそうだ) を後接させた動詞派生の形容詞は、場面や状況から主語のあらわす人やものが動作や変化が実現する直前の状態にあることをあらわす。

- 203) ku:ja asa-ra tiNto:-nu kumuti amipui-gisaN.
 (今日 朝から 天気が 曇って 雨降りそうだ。)
- 204) kawatunu munu: kadatu i:baki-gisaN.
 (変わった ものヲ 食べたので 吐きそうだ。)
- 205) ma:ja pau ui-gisanu pisapagohoN.
 (そこは ハブガ 居そうで 二の足を踏む。)

-ra:haNを後接させた派生形容詞は、動作の実現をポテンシャルな特性として、あるいは変化の結果的状态を単なる状態としてあらわす。下の例の派生形容詞humeki-rahaN、i:-

ra:haNを主体動作動詞humekiN（注意を払う）の継続相humekituN（注意を払っている）、主体変化動詞i:N（老いる）の継続相i:tuN（老いている）におきかえることができる。しかし、継続相は、動作継続や結果的な状態をあらわすが、動詞派生の形容詞humekira:haN、i-ra:haNは、人やものの特性や状態をあらわす。動詞のあらわす時間的な展開過程に無関心で、動的な側面をもたない。

-ra:haNは、動詞連用形にも、名詞にも形容詞にも後接して派生形容詞をつくる。

206) anu cju:ja humeki-rahaN. (humekiN注意を払う)

(あの人は 繊細だ／細かい)。

207) hatahanu sjo:ju:ja imi-ra:haN. (imiN催促する)

(濃い 醤油は 使い出がある)。

208) humisaN-ja imi-ra:haN. (imiNせびる)

(文さんは 細かい)。

209) ku:nu kwaQki-ja sukoi-dati-ra:hanu kami:saN.

(今日のご馳走は 豪華すぎて、 食べられない。)

210) unu na:be:ra:ja i-ra:haN. (i:N老いる)

(その糸瓜は 臺がたっている)。

211) anu cju:ja tusi-tu u:ziti i-ra:haN. (i:N老いる)

(あの人は 年二 応じて 老けている)。

接辞-zja:haN（～上手だ）を後接させる派生形容詞は、動作を実現する能力が主体の特性としてとしてそなわっていることをあらわす。

212) cutomu-ja ju: ami-ci tui-zja:haN.

(ツトムは 魚ヲ 網で 獲り上手だ (獲るのがうまい)。

213) unu kwa:ja kuteNgwa:ru naracjesuga ubi-zja:haN.

(その子は 少しシカ 教えていないが、覚え上手だ (ちゃんと覚える)。

214) kuci-nu magihanu cju:ja utai-zja:haN.

(口の 大きな 人は 歌い上手だ (歌うのがうまい)。

215) kimu-ja gunahasuga kuci kanai-zja:haN. (kanaiN適う)

(気は 小さいが、 口ガ 達人だ。) 特性

216) na:ma gaQko: izuraNsuga zi: haki-zja:haN.

(まだ 学校ニ 行っていないが、字ヲ 書き上手だ (書くのがうまい)。

217) tai-ja wakahanake:-ja mo:i-zja:hataN.
 (二人は 若い頃は 踊り上手だった (踊りがうまかった)。)

218) sa:dakama:ri su:tu ugami-zja:hataN.
 (霊力高く生まれているので、拝み上手だった (拝むのがうまかった)。)

接辞-zja:haNを後接させる派生形容詞は、可能動詞とおなじく連用的な格を支配し、擬声擬態語などの様態副詞によって修飾されるという動詞の性格を保存していて、能力可能動詞にいかえることが可能である。

219) pa: cju:hanu u:gi: gasanai kami-zja:haN.
 (歯ガ 強くて、甘蔗ヲ ガリガリと 食べ上手だ (食べるのがうまい)。)

220) pa: cju:hanu u:gi: gasanai kami:suN.
 (歯ガ 強くて、甘蔗ヲ ガリガリと 食べられる。)

能力不可能をあらわす文の反対の意味をあらわす文について質問したとき、派生形容詞を述語にもつ文でこたえた。否定形式は不自然であるらしい。

221) pa: cju:hanu u:gi: kami-zja:haN.
 (歯ガ 強くて、甘蔗ヲ 食べ上手だ (食べるのがうまい)。

222) pa: jo:hanu u:gi: kami:saN.
 (歯ガ 弱くて、甘蔗ヲ 食べられない。

接辞-zja:haNを後接させた派生形容詞は、動作実現に関するポテンシャルな特性だけでなく、評価的な意味もあわせもっていて、形容詞としての性格があらわれている。それに対して、能力可能動詞には評価的な意味合いはなく、形容詞と動詞のちがいはたもたれているといってよいだろう。

6.2 名詞からの派生形容詞

-gorohoNは、動詞連用形について派生形容詞をつくる接辞だが、身体部分をあらわす名詞kimu (肝・心)、wata (腹)、du: (体・胴) について人の生理的な状態、心理的な状態をあらわす派生形容詞をつくる。

223) zisiN-ci ja:niNzju buru nagarahaQti kimu-gorohoNja.
 (地震で 家族ガ みんな 流されて かわいそうだね。)

- 224) hitimunu-nu nukuimunu: kadi nu:gara wata-gorohoN.
 (朝食の 残り物ヲ 食べて なんだか 腹具合が悪い。)
- 225) cju:-ni mi:waku hakitu du:-gorohoN.
 (人に 迷惑ヲ かけるので、心苦しい。)
- 226) tu:ti zjatu iki du:-gorohoN.
 (走って きたので 息が 苦しい。)
- 227) harukuni-ja gumahanuke-ra gaki-rahaN.
 (治国は 幼いころから 食いしん坊だ。)
- 228) josinagasajuri-ja kurahanu huto: inagu-ra:haN.
 (吉永小百合は きれいで 本当ニ 女らしい。)
- 229) tanakamakiko-ja ikiga-ra:haN.
 (田中真紀子は 男っぽい。)
- 230) ari-ga su:su-ja pigai-ra:haN.
 (彼の やり方は 不器用だ。)
- 231) anu cju:-ja kuNzjo:-rahaN.
 (あの 人は 怒りっぽい。)
- 232) anu cju:-ja ga:-rahaN. nu: simitiN zjo:to: eN.
 (あの 人は 辛抱強い。 何ヲ させても いい。)
- 233) anu cju:-ja sugaineja buN-ra:haN.
 (あの 人は 装うと 立派だ／威厳がある。)

6.3 形容詞からの派生形容詞

数はすくないが、前要素に形容詞をもち、接辞の-gisaN、-rahaNを後接させた派生形容詞がある。形容詞のha連用形に-gisaNを後接させた派生形容詞は、表情や行動などの外的な状態にあらわれている第三者の内的な心理的な状態や生理的な状態をあらわす。

- 234) anu kwa:ta-ja nu:-ga sakura usoho-gisaN.
 (あの 子たち 何ヲ しているのか 楽しそうだ。)
- 235) cju: kaQsaN acimati irike:ha-gisaN.
 (人が たくさん 集まって 楽しそうだ。)
- 236) anu kwa:-ja mici-N binaraha-gisaN.
 (あの 子は 見ても (見るからに) 病弱そうだ。)
- 237) ari-ja ma:mina nati, harajo:ho-gisaN.
 (彼は もやしで、 病弱そうだ。)

ubohoN (重い)、aQsaN (浅い)、siNzicinu (真実の) makutunu (誠の) など、ものの特性をあらわす形容詞の語幹に-rahaNを後接させた派生形容詞は、人の特性をあらわす形容詞を派生させている。なお、238) の用例ではものの特性をあらわす形容詞を派生させている。

238) naciziN_{gusiku}-ja isigaki-nu cimikata-nu cibira:hanu ubura:-haN. (ubohoN重い)
 (今婦仁城は 石垣の 積み方が 素晴らしくて 重々しい・威厳がある。)

239) anu cju:-ja asa-rahamu cju: etu munugutu kaNtaN-ni simasuN.

(あの 人は あさはかな 人 だから 物事ヲ 簡単に すます。)

(aQsaN浅い)

240) anu ma:ma-ja tusui-Ngati siNzici-ra:haN. (siNzicinu真実の)

(あの 姉さんは 年寄りに 親切だ。)

241) ari-ja makutu-rahaN. (makutunu誠の)

(彼は 誠実だ。)

242) wa: kwa:-ja taNki-ra:hanu munu-N ja:raN. (taNki短気な)

(うちノ 子は 短気で 物も 言えない。)

6.4 名詞述語からの派生形容詞

接辞-jaQseNを後接させた派生形容詞がえられた。類似の派生形容詞の有無については未確認である。

243) zini-ga iQcjea:ra irumi-jaQsaku natuN. (irumi収入)

(金が 入ったのか 暮らしやすく なっている。)

名詞述語をつくるコピュラeN (である) に接辞-giseNを後接させたe:-gisaNがある。ほかの方言などをみると生産性はあるとおもわれるが、得られたのは次の1例であった。

244) anu kwa:-ja gaki e:-gisaN.

(あの 子は 食いしん坊 そうだ。)

7 接頭辞による派生形容詞

得られた形容詞の数はすくないが、接頭辞jumu-, sa:-, o:-を前接させた派生形容詞がある。接頭辞jumu-は、特性や状態の程度がおおきく、マイナスの評価(不快さ)を付加する。jumu-acihaN (ひどく暑い)、jumu-icjunahaN (ひどく忙しい)、jumu-kasimahaN (うるさ

くていやだ)、jumu-gusahaN (ひどく臭い・臭くていやだ)、jumu-sabihaN (とても淋しい)、jumu-sikarahaN (とても淋しい)、jumu-pagohoN (不潔だ、いやらしい)、jumu-saitarahaN (ひどく変だ) などがある。接頭辞jumu-は生産性があるが、マイナス評価を付加できない語彙的な意味をもった形容詞には前接できなさそうである。前接の条件についての解明は今後の課題である。

245) nu:-ga kusaritura jumu-gusahaNdo.

(何が 腐っているのか、ひどく臭いよ。)

246) ku:-ja du:cjui:-Nka etu jumu-sikara:haN.

(今日は 一人なので ひどく淋しい。)

247) anu ikiga-ja jumu-pagohoN.

(あの 男は いやらしい。)

sa:-、o:-は語例が1例ずつしか得られていないので、付加される意味については未確認である。

248) anu ja:-ja nage akijasiki nati sa:-pagohonu iraraN.

(あの 家は 長く 空き屋敷で、薄気味悪くて、入れない。)

249) ku:-nu asa-ja o:-pigurahanu zjo:siki naraN.

(今日の 朝は 底冷えで、炊事 できない。)

参考文献

- 荒正子1989「形容詞の意味的なタイプ」『ことばの科学3』pp.147-162、むぎ書房
 工藤真由美編2007『日本語形容詞の文法』ひつじ書房
 佐藤里美1997「名詞述語文の意味的なタイプ－主語が人名詞のばあい－」『ことばの科学8』pp.151-212、むぎ書房
 鈴木重幸1972『日本語文法・形態論』p.518、むぎ書房
 樋口文彦1996「形容詞の分類」『ことばの科学7』pp.39-60、むぎ書房
 樋口文彦2001「形容詞の評価的な意味」『ことばの科学10』pp.43-60、むぎ書房
 八亀裕美2007「第2章 形容詞研究の現在」『日本語形容詞の文法』pp.53-77、ひつじ書房
 八亀裕美2008『日本語形容詞の記述的研究－類型論的視点から－』p.228、明治書院